

科目名	環境デザイン論	英語科目名	Environmental Design
開講年度・学期	平成26年度・後期	対象学科・専攻・学年	複合工学専攻建築学コース1年
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	2単位	単位種類	学修単位(15+30)h
担当教員	佐藤篤史	居室(もしくは所属)	建築学科棟3階
電話	0285-20-2833	E-mail	a-sato@oyama-ct.ac.jp
授業の到達目標	授業到達目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育到達目標(JABEE)	JABEE 基準
1. 環境工学および建築設備の知識をベースとして、人間にとっての環境のシステムを説明できる。	①	D	b
2. 環境デザインを理解し、建築設計に応用できること。	①	D	b
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
到達目標1, 2とも関連レポートおよびゼミナールのプレゼンテーションで60%以上の評価により達成とする。			
評価方法			
原則として次の2項目の加重平均により評価する。			
1. ゼミナール形式授業での意見発表等(自主的な考えや意見発言など)(50%)			
2. ホームワーク(問題や課題の提出状況と回答内容)(50%)			
授業内容	授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間
1. 生活環境と健康問題 建築物に関わる健康被害について	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
2. 熱環境と快適性(その1) 人体の熱収支、恒常性	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
3. 熱環境と快適性(その2) 各種の温熱指標	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
4. 空気環境と人間の健康 シックハウス、シックビルディング	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
5. 光環境・色彩心理 光による生理・心理反応	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
7. 音環境 騒音・音響計画・音響と心理	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
8. 中間レポート	同解説		4
9. 被服と建築環境 被服の文化的役割と断熱・保温性能	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
10. 生活空間の環境(その1) 高層住宅への居住、都市の生活	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
11. 生活空間の環境(その2) 入浴・睡眠環境	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
12. 福祉と環境(その1) 高齢者の温熱環境・暖冷房	教科書の対応部分をレポート2~3枚にまとめ、疑問点を抽出する。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
13. 福祉と環境(その2) 環境から見たユニバーサルデザイン	事前に建築計画的見地からのUDを調べておく。その上で環境的見地と比較。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
14. 快適なオフィス環境 グリーンオフィスの計画	配付資料をもとに、労働環境の快適条件を把握しておく。復習は理解度を見て随時課題を出題。		4
15. 期末レポート	同解説		4
自学自習時間合計			60
キーワード	環境、人間、心理、ホメオスタシス、緑化建築		
教科書	栃原裕編「生活環境の快適性」アイ・ケイ・コーポレーション ISBN4-87492-219-8		
参考書	1. 日本建築学会編「人間環境学」朝倉書店 2. 日本建築学会編「人間-環境系のデザイン」彰国社		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	環境工学、建築設備		
現学年の関連科目	環境技術		
次年度以降の関連科目	設備システム論		
連絡事項			
環境デザインの考え方は幅が広いが、本講義では特に「人間-環境系」の内容を取り扱っている。その他集団行動や心理等様々な項目を加えて積極的に学んでほしい。			
シラバス作成年月日	平成26年2月19日		